

「相談事業担当者・相談事業管理職向け研修」

2025年度 実施報告書

特定非営利活動法人全国女性会館協議会御中

下記のとおり、報告いたします。

報告日 2026年 2月12日

1 施設概要

施設名	大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」	
代表者名・職名	センター長 中山良恵	
住所	〒143-0016 東京都大田区大森北 4-6-7	
	電話 03-3766-4586	FAX 03-5764-0604
担当者名・職名	主担当 矢島真知子 (NPO 法人ジェンダー平等 Labota 理事、相談員)	
	E-mail m.yajima@g-labota.com	

2 事業の概要

事業名	変化を味方にする相談員アップデート研修 ー新しいニーズに応える知識と実践ー
趣旨、ねらい	男女共同参画センターや女性関連施設の相談は「女性が抱える問題は社会的な問題である」というジェンダー視点に立ち、女性をエンパワーメントする役割を担ってきた。その根幹となる役割は変わらず求められる中、SNS の発展等により相談者と相談員間の「情報格差」が少なくなったことや、男性からの相談ニーズの顕在化などによって、相談事業のあり方には変化が求められている。本研修はジェンダー視点に立った相談がより多くの人のエンパワーメントにつながるよう、社会の変化に対応できる相談員を増やすことを目的とした。
対象者と定員	男女共同参画センター等の相談員・相談事業担当者・管理職、行政の男女共同参画担当者、さまざまな機関でジェンダーに関わる相談に携わる人 20人程度
実施日	2026年1月23日(金)、24日(土)
プログラム概要	<p>【1日目 1月23日(土)】</p> <p>13:00～13:30 オリエンテーション 担当：岡智子 (NPO 法人ジェンダー平等 Labota)</p> <p>13:30～15:00 講義① 相談員はAIとどうつきあっていくのか～ジェンダーの視点から考える～ 講師：横山美和さん (都留文科大学教養学部准教授)</p> <p>15:00～15:30 講義①の振り返りワーク 担当：矢島真知子 (NPO 法人ジェンダー平等 Labota)</p> <p>15:45～17:45 講義②・事例検討 男性DV被害者の相談対応～調査結果から見える心理と特徴～ 講師：西井開さん (一般社団法人UNLEARN理事/ 立教大学大学院社会デザイン研究科特任准教授)</p>

	<p>17:45～17:50 1日目まとめ</p> <p>18:15～19:45 情報交換会（希望者のみ）</p> <p>【2日目 1月24日(日)】</p> <p>9:30～10:00 講義②の振り返りワーク 担当：矢島真知子（NPO 法人ジェンダー平等 Labota）</p> <p>10:00～10:40 活動報告 相談から見える地域の課題～社会課題解決へのアプローチ 講師：林由美さん（男女共同参画センター横浜 相談センター）</p> <p>10:50～12:20 グループワーク 社会の変化に対応できる相談員を増やすためにできること ファシリテーター：矢島真知子、岡智子（NPO 法人ジェンダー平等 Labota）</p> <p>12:20～12:30 閉会挨拶・アンケート記入 担当：岡智子（NPO 法人ジェンダー平等 Labota） 柴田美代子さん（全国女性会館協議会常任理事）</p>
実参加者数	22名（1日目：20名、2日目：19名）
アンケート結果の概要	別紙参照
担当者所感	<p>相談を取り巻く社会の変化として、AI相談の台頭と男性DV被害者の顕在化をテーマに取り上げたところ、「まさに今知りたいことだった」という反応が多く、全国から20名を超える方の参加があった。</p> <p>AIをテーマとした講義では、AI相談のメリットデメリットを理解することで生身の相談員の意義を考える機会となったことに加え、AIから男女センターの相談につなげるにはどうすればよいのか等、相談事業の中でAIをどう活用するかという視点からの示唆も得られた。</p> <p>男性DV被害者の相談対応については、DV関係の種類の解説から被害者と加害者が明確に分かれるわけではないことを学び、自分自身のバイアスに気づく必要性を改めて実感した。また、事例検討の進め方も実践的であり、参考になったという感想が多かった。</p> <p>活動報告では、相談から見える地域の課題を可視化する好事例として男女共同参画センター横浜のAnnual Report作成のプロセスを報告いただき、相談を事業・施策につなげるだけでなく、課題分析を経験することが相談員の育成にもつながるという効果も知ることができた。</p> <p>グループワークでは、話し合いを通じて他センターの情報を参考にできたことに加えて、言語化することで自分の考えや課題を整理できたという感想が得られた。</p> <p>今回の研修では、知識をできるだけ実践に活かせる形で持ち帰れるよう、講義内容を基に話して考えるワークの時間を多く設ける時間配分にした。アンケート結果を見ると、その効果が一定程度得られたのではないかと思う。</p> <p>全国の相談員・相談事業担当者同士がつながることは、相談員・担当者自身のケアのために必要なことである。今回、集合研修で直接顔を合わせてじっくり話し</p>

	合うことができたのは良かったと思う。その一方で、今回の参加者の内訳を見ると、相談員は全体の1/3と想定よりも少なかった。より多くの相談員と相談事業担当者がともに学べる形式での開催も検討していきたいと思う。
--	--